随　想

深沢七郎著『楢山節考』| 新潮社

「楢山節考」を読んで

友の会会員　岡本　義人

" お姥捨てるか裏山へ 裏じゃ蟹でも這って来る "
雪の裏山へ…。欣然として死への旅に赴く、老母「おりん」を背板に乗せた孝行息子辰平は、胸のはりさける思いで山に登った。そして、「おりん」を山に置き帰る途中の三叉路で、帰路の方向を示して折り捨てられた「新しい木の枝」をみて、激しく泣きながら、「ゆるしてくれ！　必ず自分もその時が来れば、子供の背板に乗せられて、お山に登るから。」と己の心に誓うのだ。

またこの本では、「人の生き様」を対比するかのように、山から下りる途中の辰平は、山行きを拒み、蓑虫のように荒縄で縛り上げられて息子に谷底に蹴落とされる、隣家の親爺の姿を目撃する。

当時の人たちは、極限の環境の中で、ぎりぎりの決断を強いられながら生きた。残酷であっても、「絶対に足りない食料」を子供たちに分け与えるために、老人を捨てることは、従わなければならない「貧しい部落の掟」であったのであろう。

私はやるせない思いでこの本を読みながら、ふと略脈もなく、当時の人たちは、世を怨みたくなる様な厳しい環境の中でなんとか生きるために、素朴な「救済信仰」を求めたのではないか、との思いが頭によぎった。

おりんも、死の直前の一瞬に、傍らに立つ「光り輝くみほとけ」のしびれるような心地よい感覚と、遠い未来から自分を見上げる沢山の幼いいのちの存在を見たのではないか。おりんは、「自らの死を通して」後世のいのちのなかに生きたのだ、と思ったのである。

後日私は、親の介護に関わる問題点を鋭く指摘した、ＮＨＫスペシャル「ミッシング・ワーカー」というドキュメンタリー番組を観た。

この番組では、親の介護に明け暮れて、親の死によってやっと解放されたときには、職場や経済力の喪失はもとより、「生きる意味」すらも見失って、呆然とたたずむ初老の息子の姿を映していた。また別のシーンでは、「施設には絶対行かない。家で娘に世話になるのだ。」と声高に主張する父親の傍らで、途方にくれてそれを見つめる、独り身の娘の姿を映していた。

私はこれを観ながら、これは、「楢山伝説」の現代版なのか？。現代の社会は、「楢山伝説」とは真逆の道を歩んでいるのであろうか、と思った。そして私は、自ら 77 歳の後期高齢者になった今、まもなく、そして確実に訪れる「死について」、まだ全く心の準備をしていないことに気づいて、うろたえた。

そして。今からでも遅くはない、以前学んで心に残っている、「人は死に向かつて成長する」という言葉の意味を、真剣に考えようと思ったのである。

城陽市歴史民俗資料館友の会　会員募集中！

研修見学会、文化財講座、古文書講座、仏像講座等いろんな企画にご参加いただけます。
ぜひ お友達、お知り合いの方にご紹介ください。

城陽市歴史民俗資料館友の会だより
第 46 号
発行日　令和２（2020）年3月19日
編　集　城陽市歴史民俗資料館友の会広報
連絡先　城陽市寺田今堀１番地
　　城陽市歴史民俗資料館
　　電話 0774-55-7611　FAX0774-55-7612
www.city.joyo.kyoto.jp/rekishi/

城陽市歴史民俗資料館
友の会だより
編集発行：城陽市歴史民俗資料館友の会
〒 610-0121 城陽市寺田今堀１番地　城陽市歴史民俗資料館
TEL0774-55-7611　FAX0774-55-7612　www.city.joyo.kyoto.jp/rekishi/
発 行 日：令和２（2020）年3月19日
No. 46
2020.3

新年度、「サンヨレ、サンヨレ」

城陽市歴史民俗資料館友の会
会長　泰地 賢治

令和２年も早や３月です。まだ寒さが残る中にも温かい春の日差しを感じます。

先の第９回友の会総会と記念講演会（２月 29 日）は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会長、副会長で相談のうえ、急遽、取りやめることと致しました。時節柄、やむを得ない措置として、どうかご理解のうえ、ご了承下さい。今後の対応につきましては、改めてご案内します。

さて、友の会では、ボランティア活動の一環として、城陽市が主催する「JOYO エコミュージアムまちの魅力再発見ツアー」に協力しており、令和元年度第３回ツアー（３月1日）では、奈島の賀茂神社を担当しました（結局、このツアーも前記と同じ理由で中止となりました。）。賀茂神社の紹介資料を作るために、いろいろな資料を当たり、地域の方にお話を伺う中で面白いことに気が付きました。賀茂神社は、平安時代末期の寛治６年（1092）、上賀茂神社の祭神を勧請して祀ったのが起こりといわれ、平安時代、この地域は上賀茂神社の社領でした。ここ賀茂神社では９月１日に八月大名(農家が一息つく時)の仕上げとして行う八朔祭で、参加者は「サンヨレ、サンヨレ」と唱えながら本堂を廻られるとのこと。城陽市民俗調査報告書第1集（1995 年）によれば、サンヨレとは「幸い寄れ」の意味といいます。一方、賀茂神社と関わりの深い上賀茂神社には「幸在祭（２月 24 日）」があります。男子 15 歳の元服を祝う行事で、「幸在」は「サンヤレ」と読みます。上賀茂神社と賀茂神社。祭りの時期や趣旨は違えども、幸せを願う人々の願いは共通しているようです。

昨年末以来、中国武漢に端を発した新型コロナウイルスによる肺炎が流行し、世界に暗い影を落としていますが、ここ城陽では、コウノトリ「ひかりちゃん」が昨年 12 月に飛来し、一時他所へ行ったものの、その後舞い戻って再び美しい姿を見せたとのこと。明るい話題となりました。水度神社の由緒書には「往古、鴻が巣を結んだという鴻の巣山」とあります。コウノトリは「鴻」とも書かれることから、城陽とコウノトリとの深い関係を面白く感じたところです。

コウノトリ「ひかりちゃん」が昨年 12 月に城陽市に飛来

何かと気にかかることの多い昨今ですが、一日も早く、穏やかな春が訪れますように。そして、会員の皆様には「サンヨレ、サンヨレ」 幸せが寄ってきますように … 。

城陽市歴史民俗資料館友の会からのお知らせ

新年度の活動について
―新型コロナウイルス感染拡大防止への対応―

会長（暫定）泰地　賢治

友の会では、2 月 29 日に第 9 回総会と記念講演会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスによる肺炎拡大防止のため取り止めざるを得ませんでした。会員の皆様には何かとご心配をおかけして申し訳ありません。会員の皆様には、できるだけ早く友の会の事業、総会や記念講演会への対応などについてご案内いたします。以下、新型コロナウイルス感染拡大防止に関するこれまでの経緯と今後の考え方についてご報告します。よろしくご賢察のうえ、ご了承下さい。

【これまでの経緯】

［2 月 26 日］政府はスポーツ団体や文化団体に対し行事の自粛を要請。

［2 月 27 日］城陽市でも同様の動きとなり、各種行事が取り止められる事態となりました。そこで、本来ならば役員会でその対応を諮るところですが、時間的にも切迫していたため、会長と副会長の 3 名で相談し、急遽、29 日の総会と記念講演会を取りやめることとしました。その旨を記念講演会の家永智子講師（宇治市源氏物語ミュージアム）及びその時点で総会への出席の連絡のあった全ての会員に電話で連絡し、ご了解を得ました。

［3 月 3 日］3 月度役員会（3 月 14 日）を中止することとしました。資料館から臨時休館（3 月 6 日～ 13 日）する旨の連絡をうけました。

【今後の考え方】

（1）2 月 29 日の総会で「会長の改選」が行われる予定でした（議案第 3 号）。しかしながら、総会が取り止められたため会長の選出がされておらず、また事態も流動的なため、早期に総会を開催することもできません。このような状況のもと、暫定的に会長を留任し、別紙のとおり「2020・2021 年度役員」を委嘱し、「2020 年度事業計画（案）」にそって準備を進めたいと思います。

（2）できるだけ早く、総会と記念講演会の対応について役員会に諮ります。

（3）友の会の活動について、会員への広報に努めます。

2020・2021 年度 城陽市歴史民俗資料館友の会役員

役員名	氏　名	担　当
会　長	泰地　賢治	仏像講座、友の会ＨＰ
副会長	吉田　好男	
副会長	小林　心一	文化財講演会、ボランティア窓口
会　計	吉田　好男	
理　事	村上　直美	仏像講座
理　事	佐藤　公美	文化財講演会
理　事	高橋　正典	友の会ＨＰ
理　事	谷本　信行	古文書講座
理　事	稲岡　計子	
理　事	名子　　昇	友の会だより編集
理　事	村上　弘芳	古文書講座
会計監査	島本　憲司	
会計監査	加藤　明美	
相談役	脇田　　健	
顧　問	工藤香代子	

2020 年度 城陽市歴史民俗資料館友の会事業計画案

事業名	内　容	
研修見学会	第 53 回 （5 月頃）	吹田・茨木・長岡京方面
	第 54 回 （11 月頃）	明日香方面
講　座	文化財講座 （（6 月頃）	城陽市の文化財最新情報
	古文書講座 （8 月～ 9 月）	古文書の解読 【全 4 回】
	仏像講座 （11 月～ 12 月）	仏像について (座学及び現地見学) 【全 4 回】
ボランティア活動	城陽市歴史民俗資料館事業	勾玉教室、考古学教室、縄ない教室 その他
	エコミュージアム事業	エコツアー協力その他
広報活動	友の会だより （3 月、7 月、11 月）	年 3 回発行
	友の会ＨＰ（随時）	更新

② 平城宮跡資料館等では、熱心なボランティアの方から説明して戴きました。

a) 早川和子氏が描いておられる平城宮の “ 大判の復元図 ” が何枚か展示されていましたが、城陽の東部コミセンロビーにも “ 正道官衙等の復元図（早川和子氏）” 等が展示されています。同じ所に「当時の正道は河原であり、水度神社の御旅所用に鐘を鋳立てた」との古文書（解釈文とも）や地図も展示中ですので是非ご覧ください。（展示等は城陽市歴史民俗資料館の配慮です）

遣唐使船を背景に参加者の記念撮影

b) 遣唐使等が乗船した原寸大の “ 模造船 ” が平城宮いざない館に繋留されており、何名かで乗船体験をしましたが、こんな小さな船で日本から朝鮮半島へ、新羅等との関係悪化後は中国を直接目指したとは到底信じられるものではありません。

c) 大極殿から生駒山が見えましたが、ガイドの方から「生駒山と東京スカイツリーはどちらが高いか」の話もあり、関西人やなぁ～と感じた次第です。（正解は、生駒山 642m、スカイツリーは武蔵（634m）です。） また、ススキの群生や栴檀の木もあって話が弾み、時間経過も早く感じられました。

城陽市歴史民俗資料館 **友の会ボランティア活動のごあんない**

縄ないボランティアに参加してみませんか

歴史民俗資料館では友の会の皆様からボランティアを募り、様々な事業にお手伝いいただいていますが、今回は小学校 3 年生の「縄ないボランティア」について紹介します。

資料館では、平成 20 年から「縄ない」体験学習を実施しているところです。これは主に市内 10 小学校 3 年生の児童たちが、「昔のくらし」体験学習で来館した際に、昔ながらの縄ないを体験するものです。今年も 2 月には市内の小学校 3 年生の児童が来館し、体験しました。（残念ながら 2 校は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりましたが…）

ボランティアの方々には、児童 5 ～ 6 人のグループをそれぞれ担当していただき、30 分程度で縄ないの指導をします。最初は全体で簡単にボランティアの自己紹介、その後はグループに分かれ縄のない方を教えます。上手に縄をなう児童もいれば、苦手な児童もいますが、教えることを通して、児童とのやりとりが生まれ、苦労して出来上がった縄を見て、児童が喜ぶ姿は何物にも代えがたいものがあり、ボランティアの皆様にも充実した時間になっていることと思います。最後は、代表の方に出来上がった縄と関連させ、ばねばかりを使った実験を通して、縄ないについての理解を深めていただいています。

ボランティアに参加される方は事前に打ち合わせし、各自の都合のつく時間に来館し、教えていただきます。個人に負担がかからないように、ローテーションを組んで対応し、今年は新たに 6 人の方が縄ないのボランティアに登録していただきました。初めて縄ないのボランティアに参加していただく方には事前に縄ないの講習もしています。縄ないの指導の後は、お茶を飲みながら和やかに世間話をされていて、新たな人と人とのつながりが生まれています。友の会の皆様で、やってみたいという方は勾玉づくりの教室指導など様々なボランティア登録も随時おこなっていますので、歴史民俗資料館にお問い合わせください。

縄ないボランティアのお問い合わせは
城陽市歴史民俗資料館
TEL0774-55-7611　FAX0774-55-7612

城陽市歴史民俗資料館友の会

第52回研修会に参加して

城陽市歴史民俗資料館を再認識

友の会会員　村上　弘芳

肌寒い気候でしたが 11 月 28 日、友の会会員総勢 32 名での『**唐古・鍵遺跡及び平城宮方面**』への研修見学会が車内の熱気とともにスタートしました。

いつもながら役員の方々による各種のご手配に感謝しながら楽しく一日を過ごすことが出来ました。有難うございました。平城宮については余りにも有名ですが､僕自身ノーマークでもあった｢唐古・鍵遺跡での感想・その他気づいたことや我が五里ごり館との関連等｣を記します。

唐古・鍵考古学ミュージアム

奈良・田原本町に到着後２班に分かれて説明を受けましたが、学芸員Ｉさんの学識に裏打ちされた解説は楽しく時間を忘れました。

① 約 2,300 ～ 1,700 年前が弥生時代と言われていますが、この遺跡は約 2,000 年前のもので“紀元前 6,000 年前に揚子江近辺にて稲の栽培が始まり、朝鮮半島を経由して当地にもたらされた事や、近畿で最大規模の環濠集落でもあり、約 600 年間続いていた事などが確認された" そうです。周辺の集落とも連動してそれが著名な纏向遺跡に収れんしているとの事でした。（稲に関連して、秦の始皇帝の時代の "不老不死の仙薬" を求めて渡来した徐福の話も出ました）

② 弥生時代の遺跡等では過去に友の会から大阪府弥生文化博物館や橿原考古学研究所等へも訪れております。

③ 出土品として「楼閣が書かれた土器・褐鉄鉱容器とヒスイ勾玉・鶏形土製品等」が展示されていました。

唐古・鍵遺跡からはガラスの発掘は少なかったですが、城陽の芝ケ原古墳では「銅釧は２個・ヒスイ製勾玉は８個･ガラス製小玉 1,264 個以上」等が発掘され、この学芸員の方は五里五里館や城陽市内に点在する古墳群も見学されており“唐古・鍵遺跡は低地にあるが、城陽の森山遺跡等は比較的高い場所にあり、中部から近畿へは河川をも利用して人・物の流通があり、その結果城陽は交通の要衝として発展したため、多くの出土品があったのでは？”との見解も示され、同時に城陽市歴史民俗資料館の展示等について激賞されました。僕は資料館では、定期的に更新される古文書類を静かな環境でジックリ味わえること（解釈文もあります）や車塚の長持形石棺（複製）をじっと見ていると落ち着くのです。（実物は京大総合博物館に保存）

その他に感じたこと

① 唐古・鍵遺跡史跡公園はボランティアの方にお世話になりました。同じく２班に分かれましたが、メンバー同士での議論？もあって時間が超過しました。

楼閣が書かれた土器

a) ミュージアムで見学した「楼閣が書かれた土器」を参考にして、広大な遺跡の東側に「唐風の楼閣が再現？」されていました。2000 年前と変わらないであろう山々（龍王山や三輪山・南西には二上山）を見ながら弥生人も見ていたと同じ風景を楽しみました。この楼閣は“三輪山を祭神とする大神神社を臨むので祭祀の為では？とか太陽が昇るので時間を知るため？等”賑やかなことでした。僕は吉野ケ里を思い出していました。

2019（令和元）年11月28日㊍

第52回城陽市歴史民俗資料館友の会 研修見学会

［唐古･鍵考古学ミュージアムと平城宮遺跡］を訪ねて

城陽市歴史民俗資料館学芸員　池縁　いづみ

昨年の 10 月に採用されました池縁です。よろしくお願い致します。今回、初めて研修見学会に参加させていただきました。行先は唐古・鍵考古学ミュージアム、唐古・鍵遺跡史跡公園、平城宮跡資料館、第一次大極殿、遣唐使船、平城宮いざない館。どちらの遺跡も大学生の頃行って以来久しぶりだったので、楽しみにしておりました。

研修見学会は、バスが満席になるほど多くの方が参加され、定刻通り出発し、唐古・鍵考古学ミュージアムへ到着。ボランティアガイドの方がすべての展示品ひとつひとつ丁寧に解説して下さり、皆さんも熱心に聞き入っておられました。そして昨年オープンしたばかりの史跡公園へ。公園内では３班に分かれ、ガイドの方の案内のもと、弥生時代最大級の柱穴を再現した遺構展示情報館や一部復元された環濠、絵画土器から復元された楼閣などを巡りました。以前訪れたときは草木に覆われた唐古池と楼閣しかなかった記憶がありましたが、弥生時代のムラを体感することのできる立派な史跡公園になっており驚きました。お昼は向かいの道の駅｢レスティ唐古・鍵｣にてそれぞれ昼食をとりました。

午後からは平城宮跡へ。平城宮跡資料館と第一次大極殿をボランティアガイドの方のもと２班に分かれ見学しました。平城宮跡の歴史や発掘調査の過程などがよくわかる展示内容でした。時間に追われながら大極殿へ移動し、自分の身長よりも高いススキをかきわけて抜けると大極殿へ到着。昨年は即位礼正殿の儀が行われたばかりだったので皆さん高御座を熱心に見ておられました。また、大極殿からは復元工事中の南門が見え、復元工事の見学もできるとのことでした。最後に朱雀門ひろばの遣唐使船や平城宮いざない館などを見て回りました。いざない館は発掘調査の出土品や平城宮の復元模型の展示や大型映像など、奈良時代にタイムスリップしたような雰囲気を味わえる施設でした。

少し寒い日ではありましたが、何事もなくスケジュール通り終えることができ、準備していただいた役員の皆様には本当にお世話になり、感謝申し上げます。今回、会員の方と交流して、その熱心な姿に私も良い刺激を受けることができました。有難うございました。

ススキをかき分けて第一次大極殿へむかいました

大極殿では高御座に注目

第 52 回見学会に参加のみなさん（唐古・鍵遺跡史跡公園にて）

2019（令和元）年12月19日㈭

城陽市歴史民俗資料館友の会 仏像講座

［円成寺］見学会に参加して

奈良市忍辱町

城陽市歴史民俗資料館学芸員　薄井 ゆみこ

本堂でご住職から円成寺の成り立ちを拝聴

令和元年度の仏像講座の締めくくりの現地見学会に参加しました。今回は奈良市忍辱町の円成寺です。奈良市内にこんなところが!と思うような、人里離れた山の中の静寂に包まれた場所です。

まず、本堂でご住職からお寺の成り立ちと歴史のお話をお伺いしました。本堂は平安時代の本堂を室町時代に再建した寝殿造のような建築で、ご本尊の阿弥陀如来坐像（重要文化財）が安置されています。このお像は定朝様の典型ともいえる仏様であるとのことです。その後それぞれ自由に本堂の中やその他の建築などを見てまわりました。

大日如来坐像 運慶作 国宝
円成寺ホームページより

今回の見学会の一番の目的は、運慶の大日如来像(国宝)です。講座では、横から見たときの独特のプロポーションや、髪の毛の一筋一筋が丁寧に表現されているところ、目が少し切れ上がって頬がきりっとひきしまっているお顔などの見るべきポイントを教えていただいていました。

その大日如来像は新しく建てられた相應殿に安置されていて、横側まで回りこんでじっくりと見学することができ、疲れたら腰掛けて休憩できるベンチや参考になる本や雑誌も置かれていて、いつまでも滞在したくなるところでした。実際にお像を拝見すると、講座で戸花先生が話されていたとおりみずみずしいフレッシュな印象があり、若い運慶が情熱を持って制作にあたっただろうと想像できました。その大日如来坐像が元々置かれていた多宝塔は平成になって再建され、現在はお像の当初の姿を復元したレプリカが安置されています。

仏像見学の後は全国最古の春日造社殿である鎮守春日堂と白山堂（国宝）、また楼門を入ってすぐに広がる藤原期の浄土式庭園をぐるっと回って見学しました。肌寒い日でしたが、余裕を持ったスケジュールでゆったりと見学を楽しむことができました。

国内最古の春日造社殿 鎮守春日堂と白山堂（国宝）

円成寺見学会に参加のみなさん

城陽市歴史民俗資料館友の会 仏像講座

「仏像講座」を終えて

友の会会員（講座担当役員）泰地 賢治

恒例となった戸花亜利洲先生（帝塚山大学文学部講師）による「仏像講座」（座学３講と現地見学会）は本年度も多数の受講者を得て、成功裏に終えることができた（2019 年 11 月～ 12 月）。以下、その概要について報告する。

【１】講座の概要

テーマ

「鎌倉時代の仏像を考える

－運慶・快慶を中心として－」

平家が壇ノ浦に滅び、源頼朝が権力を確立した文治元 (1185) 年は、それまで長く続いた貴族中心の社会から武家社会へと移行した新たな時代のはじまりであり、こうした社会の変革は彫刻の分野においても大きな変化をもたらした。講座では鎌倉時代を代表する仏師、運慶や快慶の仏像を中心に鎌倉彫刻について考える。

【２】講座の内容

（1）第１講（座学）「運慶」（11 月 7 日）

鎌倉時代の仏像を考える４つのキーワードとして、

①玉眼の使用、

②仏師銘の記入、

③古典（奈良・平安時代の仏像）の学習、

④宋画の影響が挙げられる。

運慶の作風の変遷について、

前期：円成寺大日如来像（1176 年）、

中期：願成就院網座如来像（1186 年頃）、

後期：興福寺北円堂弥勒仏像（1212 年頃）

を比較した。

（2）第２講（座学）「快慶」（11 月 21 日）

快慶の活動は、その銘によって「仏師快慶（1183 年）」、「安阿弥陀仏（1192 年）」、「法橋快慶（1203 年）」、「法眼快慶（1210 年）」の４つの時期に分けられ、それぞれの時期の像について説明した。城陽市の極楽寺阿弥陀如来像（快慶の造仏を弟子の行快が完成か、1227 年頃）の胎内から発見された文書には「過去法眼快慶」との記載があり、快慶の没年を考察する上で重要な資料となっている。

（3）第３講（座学）（12 月 5 日）

「霊験仏と生身仏―鎌倉時代における振興とその広がり―」

霊験とは人の祈りに応じて神仏が示す不思議な力をいう。また、生身仏とはお釈迦様の肉体を意味し、後に仏・菩薩が衆生を救うために人間の姿をとって現れたものをいう。作例として清涼寺釈迦如来像（985 年、像内に五臓六腑の模型）と清涼寺様式の釈迦如来像、青雲寺毘沙門天像、瑞泉寺地蔵菩薩像（どこも苦地蔵）、矢疵阿弥陀如来像などを挙げた。

（4）第４講（現地見学会）（12 月 19 日）

「奈良・忍辱山円成寺」

国宝大日如来坐像（桧材、寄木造りで玉眼を嵌入する）は運慶25歳頃の最初期作。極めて若々しく、端正な御像と感じた。大正 10 年の修理の際に運慶真筆の墨書銘が確認された。また、本堂（阿弥陀堂）の内陣中央、方形に配した四本柱に極彩色に描かれた聖衆来迎二十五菩薩は美しく、必見の価値がある。尚、当日、円成寺ご住職から詳しくお寺のご説明を頂いたことを付記しておく。

【３】雑感

快慶作の遣迎院阿弥陀如来像の胎内には、平家、源氏を問わず、１万２千名もの結縁交名が納められていたという。熱心な阿弥陀信仰者としての快慶と、阿弥陀にすがり来世の安寧を願う当時の人々の想いを伝えるものとして興味深い。